連続携行式腹膜灌流透析導入後の入浴開始時期とカテーテル出口部感染との関係

人工透析室　○森貴美　吉野山　神保　松井　溝口　戸田

Ⅰ　はじめに

ＣＡＰＤ(continuous ambulatory peritoneal dia--lysisの略式で連続携行式腹膜灌流透析と訳される。以下ＣＡＰＤと略）の合併症のうち、カテーテル出口部感染および皮下トンネル感染は頻度が高くかつ腹膜炎の発症につながる恐れがあるため注意が必要である。出口部感染の発症要因は、多数考えられるが、今回我々は、入浴との関連に着目し、特にＣＡＰＤ導入後の入浴開始時期との関係を検討した。

Ⅱ　対象及び方法

対象：平成４年７月～平成６年２月までに導入した患者27名

入浴条件：１）浴槽をきれいに洗い必ず一番湯に入ること
２）カテーテル出口の発赤・腫脹・浸出液がなく乾燥している
３）入浴後直ちにカテーテルケアーを施行する

方法：テンコフカテーテル挿入後の入浴開始時期を８段階に分け、入浴後１週間以内にカテーテル挿入部の異常が出現した患者の統計を割り出した

Ⅲ　結果

導入後１カ月以内に入浴した患者は、バスコートを使用していた為か、カテーテル出口部の異常はみられなかった。41日目から50日目までに挿入部開放にて入浴した患者の80％が、何らかの出口部異常が出現した。また51日目から60日目まででは、25％に異常が出現し、61日目以降からの入浴では異常の出現はみられなかった。またシャワー浴だけの者では、出口部異常はみられなかった。入浴にて出口部異常を起こした患者がシャワー浴の時期は出口部異常を起こしていなかった。

このことから、シャワー浴は、テンコフカテーテル挿入後、創部が外観的に落ち着いていれば問題ないと思われるが、入浴に関しては、外観的に挿入部がきれいであっても、浴槽につかるのは、60日以降が好ましいという結果が得られた。

Ⅳ　考察

カテーテル出口部感染の原因は、必ずしも入浴開始時期の問題だけではなく、患者の全身状態により入浴とは関係なく、カテーテル出口部異常が起こることも考えられるが、今後の教育指導にあたっては、カテーてる挿入後２ケ月はシャワー浴のみとし、カテーテル出口部のオープン入浴は、２ケ月以降とした方が良いと思われる。

Ⅴ　おわりに

平成６年２月以降平成６年12月までＣＡＰＤ導入患者８名は、入浴指導にあたり、テンコフカテーテル挿入後２ケ月は、シャワー浴のみとし、カテーテル出口部のオープン入浴は、２ケ月以降とした所、カテーテル出口部感染をおこしていない。

表１　《調査対象の背景》

項　目	内　訳	人数（％）
年　齢	40歳代	11名（40.7）
	50歳代	7名（25.9）
	60歳代	8名（29.6）
	70歳代	1名（3.8）
性　別	男　性	14名（51.8）
	女　性	13名（48.2）
職　業	あ　り	11名（40.7）
	な　し	16名（59.3）
カテーテルケアーをする人	本　人	24名（88.9）
	家　族	3名（11.1）
原因疾患	慢性腎炎	17名（62.9）
	糖尿病性腎症	9名（33.3）
	多発性のう胞腎	1名（3.8）

表２　《入浴開始時期とカテーテル出口部異常》

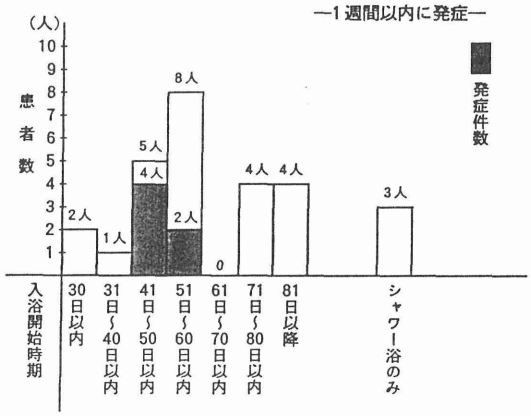
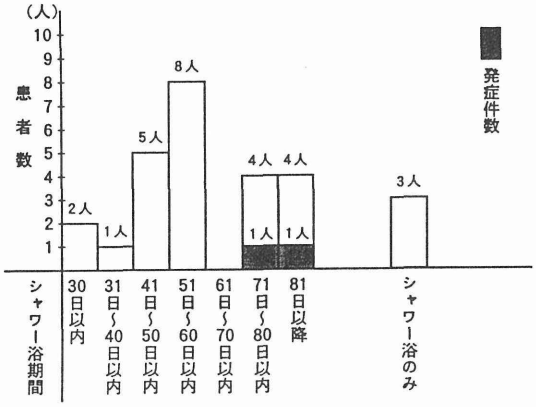
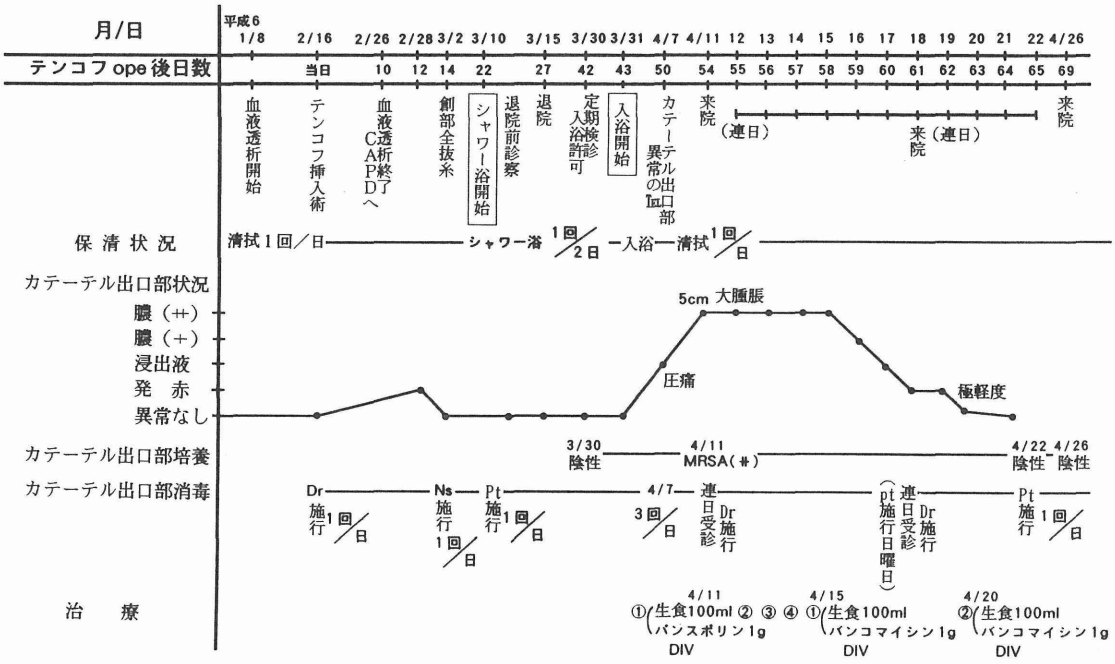


表3　《入浴開始以前のカテーテル出口部異常》



《事例》　入浴開始直後にカテーテル出口部異常をおこした症例（47歳　男性　糖尿病性腎症）